

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理スタッフ一同、理念を意識し業務にあたっている。	JAの特性を活かし、地域に密着した高齢者支援を行っていくよう、理念を掲げている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄間や職員の休憩室等に掲示、また毎月のスタッフ会議で基本方針と理念を唱和し常に意識を持つよう心掛けている。	定期的な自己評価により認識を深めている。スタッフ会議においても日々の取り組みについて、一人ずつ報告を行い意識づけをしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	チラシ、ポスター等で運営方針や理念の啓発、広報に取り組んでいる。家族に対しては、見学時や契約時に説明を行うようにしている。施設内の掲示により、来所時など理解していただけるよう努めている。	理念の啓発により、利用者、家族、地域の方々との交流を深めていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	体操教室や催し物(クリスマスツリー作り等)開催し、隣人、地域の方々が施設を訪れる機会を作っている。管内の警察署及び自治会の方達と挨拶を交わし、頂いた野菜や手作りのお菓子、工作品等おすそ分けをするなど連携を図っている。隣の駐車場には緊急時の避難、行方不明時の支援、通報等をお願いしている。	常に門を開放し、相談やその月の行事を看板に貼り、地域との接点を図っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会の行事に参加し、歳末防犯防火の巡回、回覧板届けやゴミ当番の責任を果たし、自治会からの地域行事等の情報を得ている。「子供110番の家」にも登録し協力している。避難訓練や救急救命も自治会との合同開催、探索訓練への参加、健康教室、クリスマス会等、地域の方々や気軽に参加して頂ける様にしている。又、AEDを設置し、必要に応じて使っていただけるよう声掛けしている。	今後も利用者と地域の方々との交流を行い、共に行える行事を見つけ積極的に参加、開催していきます。又、引き続き自治会活動も行っていきます
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	スタッフ会議やサービス見直し検討会を行い、地域貢献の中身を検討している。認知症高齢者の徘徊の為にネットワークが作れないかと考え、探索訓練時に呼びかけ、商店や地域の方々に電話登録をしていただいております。行方不明になられた時等に活かせる様に取り組んでいる。	運営推進会議や地域の方との交流の中で更なるニーズの把握をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員個々で自己評価を行い、日々の業務の採点検の良い機会ととらえている。また、その結果を運営者、管理者、職員共に認識、意識の向上、改善と見直しを図っている。	○	職員一同、自己評価にて自分本位ではなく利用者本位で出来ているか確認し改善に取り組んでいる。評価結果は市へ報告今後も連携を図り、地域へのPRを続けていく。
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、サービス内容、運営について報告し意見や要望を聞き、地域の情報等の提供、評価を受け助言を頂き、又その内容についてはスタッフ会議で報告共有し、サービス改善に努めている。		評価結果、出た意見は次回のスタッフ会議で検討を行い、今後のサービスの向上に活かしていきたい。
9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自主的な相談は勿論、市サービス事業所連絡協議会や小規模多機能連絡協議会、生活圏域事業所交流会への研修等にも参加し、連携をとっている。又、介護相談員の受け入れも行っている。	○	今後も各協議会への参加や生活圏域事業所交流会への研修にも参加しサービスの質の向上にも取り組んでいく。
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度の研修に参加し、理解を深めている。包括支援センターとの連携により必要な方への支援も行っている。	○	マニュアルを活かし、今後も職員等に対して研修会等を通じて周知徹底を図る。
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し、研修会等職員の周知徹底を図っている。利用者宅等の訪問を行い、家庭内についても情報収集を行っている。	○	定期的に確認を行い、消防、警察、教育機関との連携を図っていく。
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文字を大きくしたり、分りやすい文章を用い、ゆっくりと時間を掛けて説明するように心掛けている。傾聴することを基本として、問題点を引き出す努力をしている。		行事や家族交流会等で利用者、家族の不安や疑問を引き出せるような関係作りを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	古情相談窓口の案内やポスターの掲示を行っており、職員の目を意識しないような場所に苦情相談受付箱を設置している。意見を上手に表すことのできない利用者であってもそれを理解するよう努め、得た情報についてはスタッフ会議で検討し改善している。運営推進会議でも報告し、意見を求め運営に反映させている。	○	普段の会話の中でそれとなく話しをされているささいな事や不満を聞き逃さないようにし、利用者の声を運営に反映していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	送迎時や訪問時に口頭にて情報交換を行い、連絡帳にも記載して報告している。機関紙「おたより」の発行をし、定期的な報告を行っている。職員の異動等あった場合には「おたより」の中で報告している。	○	定期的な「おたより」の発行を行い、家族が望まれる情報を把握し報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会、送迎時に意見等を収集したり運営推進会議への参加もして頂き、情報を収集している。又、収集した意見や苦情については事業所内で申し送り共有すると共に運営推進会議の中でも報告し意見を求め運営に反映させている。	○	送迎時等意見や要望等を出してもらえよう雰囲気作り、関係作りを継続していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に代表者、管理者を交えたスタッフ会議、チーフ会議を開催している。又、運営者との個人面談の機会を設けている。		継続。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	小規模の目的である柔軟性について各会議で周知徹底を図り、職員への意識に努めている。		柔軟な対応を心掛けている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同一法人間では異動もある為、スタッフも利用者も時々行き来したりして異動の際は準備期間を設けるなど顔なじみの関係がスムーズに出来るよう努めている。異動した職員も時々顔を出すなど配慮している。		異動の必要性が出たときは、混乱をきたさないよう事前に利用者とは度か顔合わせをしていく。
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているように努めている。	正職員については、労働組合加入、現職員採用は性別、年齢に関係なく採用、常勤採用を基本として資格はヘルパー2級としているが個々の性格、柔軟性、ユーモア、笑顔があることが重視。能力考課、自己申告書の導入制を実施しやりがいを持つように職員管理に努めている。	○	正職員以外の規則の見直しを検討し、生涯働ける環境作りを目指したい。職員の処遇改善を検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	マニュアルを作成活用により職員等の周知徹底を図っている。定期的に研修会を開催している。		マニュアルを活用しての研修会の実施や定期的なチェックの継続を行う。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年次職員研修計画を作成、可能な限り参加させている。それぞれ全体会議やスタッフ会議での報告、情報の共有を図っている。高度な資格取得を目指し、受験や事前研修に参加させている。	○	効果的な知識や情報の共有を行っていく。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内サービス事業所連絡会や小規模多機能連絡協議会、生活圏域事業所交流会の加入等で事業者間の交流や研修に参加し情報の共有により事業所としての質を向上させる取り組みをしている。	○	今後も連携を取り、勉強会等を通じてサービスの質の向上に努めていきたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者による個人面談により相談等取り組んでいる。親睦会の開催(旅行や会合)OJT指導等にて個々の意見の吸い上げを行っている。		今後も相談窓口を活用していきたい。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己目標を設定したマイアクションシートによる目標の自己管理と管理者面談においての助言を行い、自己考課、管理者考課を年3回実施し自己啓発を行っている。		今後ともマイアクションシートの効果的な活用と自己評価と定期的なチェックによる共有を行っていく。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者本位を基本とし、契約時のアセスメントにて聞き取る。利用時、会話や表情、態度を良く見て受け止めるよう努めている。常に笑顔と傾聴する姿勢を努めている。	○	接遇研修等の確立。アセスメント表の見直しを行い、状況や個々の情報を細部に渡って把握できるよう努めていきたい。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	それぞれの過程において思いを傾聴することを心掛けることをはじめ訪問やケア会議、面談等で要望ニーズ等の本音がだされるような関係を作るよう心がけている。		家族との思いが受け止められるようなコミュニケーション作りの強化を図っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		職員間の連携、意見を交換し支援内容の共有を図っていく。
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		短時間のデイ利用や訪問から顔なじみになったりと工夫していきたい。交流の場の提供。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		利用者と一緒に出来るものをスタッフ一人一人が見出し、よい関係が築き上げられるよう努めていきたい。
30	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている		一段と連携を密にしてご家族と共に在宅生活を支援していくよう努めていく。
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○	ご家族との関わり方を把握し、関係維持、改善に努めていく。定期的にご家族とお食事会の実施を検討している。
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○	馴染みの方々が施設への来所を促したり、気軽に連絡が取れるような支援をしている。
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている		利用者同士がコミュニケーションを図れるよう関係把握に努め、行動が起こせるよう職員が関わって行っている。他の利用者に不安を感じさせないよう努めている。
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		近くを通った時、自宅訪問したりTEL等で関係を維持している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントに思いや質問の欄を設け利用者の職歴背景を収集したり、日常会話の中で、本人の希望を少しでも聞き出せるよう努めている。月に一度利用者検討会議を開催し、共有している。本人に添った支援を心掛けている。		どんなささいな事でも本人が嫌がる事(嫌いなこと)を把握し喜ばれる事等生活の中で見出す努力をして、実施している。
36 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにこれまでの生活習慣、馴染みの暮らし、サービス利用や経過等のチェック欄を設けている。又日常的な会話からも情報の収集に努めている。		より細かい情報収集を行い、本人の意見に沿ったサービスが出来るように努めていく。
37 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントにこれまでや現在の一日の過ごし方、身体状況、有する力の記録欄を設けている。来所されている時間や訪問時の状態をよく観察、記録し把握に努めている。		記録を行っている。会話やレクリエーションを通じて把握できるよう努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画を作成するにあたり、検討会を開催し看護、介護それぞれの立場から意見を出し合い、職員の気付いた点も含め把握して計画書作成を進めている。利用者、家族の意見や思いを聞き取り把握する。共に在宅生活を支えることを共有している。		個別に計画を立てて、会議、話し合いで出た意見を参考にしている。
39 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間満了や状態の変化等の問題が出てきた時は、見直しを行い介護計画の変更を行っている。スタッフ会議の中でサービス検討会を行っている。		今後も現状に即した介護計画の見直しを行っていきたい。
40 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や支援経過、申し送り等に気付いた事は記入し、共有できるようにしている。家族に対し、連絡帳で情報を共有している。定期的な会議の開催をし日々の介護や介護計画作成時、及び介護計画作成の見直しに反映させている。		今後も気付いた事は、記録に残し情報を共有し介護計画の見直しに活かしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通所の時間変更や急な宿泊の要望にも柔軟に対応している。状態が悪くなったときの受診や本人、家族希望により通院介助支援を行なう等臨機応変に対応している。訪問活動により居宅での生活を支えたりと、在宅での生活を多機能にわたり支援している。	今後も要望により柔軟に対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や地域包括支援センターも運営推進会議へ参加して頂き、意見の収集、サービスの報告、評価を頂いている。ボランティアの受入れを積極的に行っている。消防署から避難訓練や救急救命の指導をして頂き地域の方々へも協力を依頼している。	警察、消防署、民生委員の方々に対し情報の発信と協力要請を行っている。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者とも話し合いを行い、本人や家族に選択して頂けるよう情報提供を行う等、配慮している。本人やご家族の希望、必要性に応じ他のサービスの情報提供を行っている。	居宅や入所施設等のケアマネとも連携し必要なサービスについて情報交換を行っていく。利用者や家族の要望やニーズの変化も把握し必要な情報の提供が出来るよう支援していく。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	認知症家族への成年後見制度の手続き等の相談や助言をして頂く等連携を図っている。	今後も連携を図りながら、協働に努めていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃のバイタル記録を毎月、本人や家族を通し主治医に渡してもらっている。定期受診や状態急変時の受診支援を行っている。受診時に施設での状態を伝えたり、電話にて指示を仰いだり、連携を図っている。主治医とのよりよい関係作りも目指している。本人や家族の希望により歯科受診も行っている。	かかりつけ医を把握しておき、本人、家族等の希望により、受診支援を行い、医師への情報提供を行う等、医療機関との連携を深めていく。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診に同行させて頂き、医師へ状況報告、相談を行っている。又、家族に対し専門医の紹介を行う等の支援をしている。	認知症に詳しい医師とも相談が出来るよう連携を図っている。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	申し送りによる状態変化等情報の共有を図り、受診の必要性等を相談し、日常の健康管理に努めている。同一法人の看護師へも相談、助言を受ける等連携を図っている。	今後も協働を図っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時は入院先への見舞い、家族や医療機関と情報交換を行っている。ソーシャルワーカーとの連携により退院の時期、リハビリの必要性など退院後の生活について家族を交えての検討を行っている。		今後も家族と医療機関と連携を図っていきたい。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末支援に向けて家族の思いや支え方、考え方について情報収集し思いを聞き取る等して家族の意向を確認している。主治医とも話し合いを行い、施設の関わり方等助言して頂き職員全員で共有している。		支援のあり方について家族の意向、意思の確認を行いながら文書を作成、事業所と共有していき、主治医にも支援方針についての意見を求めていく。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族と話し合いを重ね意向を踏まえたうえで事業所としての対応を話し合っている。主治医とも話し合い急変時には連絡するようにと携帯を教えてもらうなど支援する為の準備をしている。		今後も重度化、終末期の利用者が増えることが予想され、状態の変化に伴い家族の思いも変わっていくことも考えられる為、思いに添えるよう連絡を密にとり柔軟な対応をしていきたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居先への情報提供を行うとともに、事前に何度か本人に関わっていただくようにするなどダメージを最小限にする努力をしている。		入居先との情報交換を密に行いリロケーションダメージを防いでいきたい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	失敗した事を、他者に触れさせないように努めている(失禁等)。一人になれる空間を確保している。自尊心を傷つけないようコミュニケーションを保つように努力している。言葉を出るだけ否定しないようにしている。職員の言葉掛けもゆっくりとし、笑顔に努めている。接遇マニュアルを作成し、定期的なチェックとフォローを行っている。	○	今後も家族と医療機関ともに協議を図っていきたい。プライバシー、接遇マニュアルとの活用と周知徹底及び、定期的なチェックを行う。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	小さな事でも、必ず確認している。言葉に出来ない利用者に対しては、ハイカイエで答えられるような質問を短く分りやすく伝え、自己決定を促すような支援を行ったり、表情や行動から思いを読み取り、支援している。	○	本人の思いが、表現できるよう分りやすい言葉掛け、又現場作りを行う。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった行事を強要せず、リラックスした自由な時間を基本としている。出来ることと出来ないことに手や口を出さず、見守っていき、一緒に行く等、現場作りを心掛けている。又その人のペースに合わせ生活リズムを参考にしながらその人の思いを主体に支援するよう心掛けている。	○	一人一人を良く知り、その人に合ったペースで生活できるよう支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望により美容師さんに来て頂きカットしている。又外出してのいきつけの美容店も利用している。顔の手入れ(入浴、洗顔後)の乳液、クリーム使用。本人が好むような化粧を行っている。髭剃りも理容店でしてもらいたいと希望された方にも一緒に行くなど支援している。	利用者が望むようなサービスを今後も取り入れていきたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、片付けもできることは、声掛けしながら一緒に楽しんで行っている。食べ方の混乱や食べこぼなどにはさりげなくサポートするよう心掛けている。食器も自宅より持って来て頂いたりしている。利用者の体調に合わせて一緒に調理の下ごしらえ等行っている。	好む料理、馴染んだ料理の把握を行い、出来ることは一緒にを行いながら楽しんで頂けるよう支援していきたい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人、家族に情報を聞き、コーヒー等も一人一人甘さを確認し楽しんで頂いている。おやつも、手作りを中心に、又懐かしいおやつも昔を思い出しながら作ったり食べて頂いている。	これからもおやつを作ったり、買物と一緒に出かけ、好きなおやつ等も購入していきたい。
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的な声かけ、誘導を行っている。本人の排泄パターンを把握し、失禁回数を減らすよう努めている。尿取りパットの使用が多いとき、スタッフ間で話し合いながら対応に努めている。	排泄を失敗した時、スタッフが利用者に対し重荷にならないような表情や態度をせず、利用者の負担を減らしていき、失敗等を減らせるよう声掛け、見守り、誘導を行ってきたい。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前には必ず本人の意思を確認し、自由に入浴ができるように支援している。又、安心安全な入浴を心掛けている。入浴剤を使用したりしてリラックスして頂いています。	本人の望む時間を基本に楽しんで入浴して頂けるよう支援していきたい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の習慣に合わせて、いつでもお昼寝が出来るよう準備をしているお泊りの方も、入眠時間までお話ししたり、TVを見たりして楽しんで頂き、ベット、お布団と用意し、自宅での生活習慣に合わせている。	いろいろな種類の香りや音楽等を取り入れるなどリラックスして頂ける様支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	慣れ親しんだ生活歴を聞き取りながら、その方の特技や性格に合った簡単な作業をして頂き、意欲向上に努めている。小さな庭での野菜作りや草取りなど楽しんでされている。	特性や生活歴を生かしながら一人一人に合った支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買物を一緒にいき、利用者より払って頂いたり、おやつをコンビニやスーパー等へ買いに行き好きなものを買って頂ける日を設けている。(予算も決めている)		買物好きな方に対してもご家族と連絡を取り合い自由な買物ができるよう支援している。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日等は本人の希望により散歩に出かけるなど外出支援も行っている。又地域の行事等(お祭りなど)への参加も促し楽しんでいただくなど気分転換をして頂いている。		引き続き、季節を感じられるような外出支援を行ってきたい。今後、ボランティア等や地域の方にも協力して頂けるようにしていきたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望、状態により大型スーパーへの買物、図書館、神社への参拝等、時には家族とともにおやつを持参しての花見やお弁当持参での森林浴に出かけるなど支援している。ファミリーレストラン、ハンバーガーショップ等での食事(軽食)の機会も設けている。		引き続き、利用者の希望に応じた外出支援を行いながら、個人単位では実現しにくい利用者や利用者の家族の旅行を計画していきたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方が自由にTELを使える状態にしており、時々電話されている。日常の様子等が伝わるような取り組みを実施している。離れて暮らす娘さんなどに年賀状を出されるのを支援したりしている。		利用者自身が作成したお手紙等も発送していきたい。離れて暮らす家族へのTELや手紙等の支援を行います。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や親戚の人が「親身に来た」と訪問して下さっており、ご家族や知人等にも気軽に立寄って頂ける様常に声掛けを行い、居心地のよい空間作りに努めている。		今後も居心地の良い空間作りに努めていく。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束マニュアルについての研修を行い、理解を深めている。又、身体拘束検討会を行っている。		身体拘束マニュアルについては、定期的に検討を行い、引き続き身体拘束をしないケアの実践に努める。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に音がなる物を付けるなどして、利用者が外へ出たことを認知する工夫を行っている。又、万が一施設外へ出て行く「徘徊」が見られた場合には、地域住民への協力要請を行い、事故などの未然防止に努めている。		引き続き、自治会、運営推進会議等を通じて地域への協力要請を行うとともに、外出の傾向にある利用者については、常に利用者の状況を把握していく。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者担当を明確化し、プライバシーに配慮しつつ利用者個々の状態、状況を把握しながら次の担当職員へ記録及び口頭にて確実に引き継ぎを行い、連携を図っている。		常に利用者の安全を第一に目配りをしながら、利用者の一日の流れをアセスメント等を利用して把握していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	それぞれの利用者毎の状態や状況を見ながら危険がないよう常に目配り、気配りを行っている。		引き続き、危険がないよう本人の状態把握に努め行動していきたい。
71 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬は、その方で管理できるのか出来ないのかを把握し、その方に合った対応をしている。一人ひとりの行動をよく観察し、転倒しそうな所への声掛け等を行っている。休まれる時などは、状態を定期的に確認、環境整備に配慮し、事故防止に努めている。防火訓練、行方不明想定訓練を行う。(一人ひとりどのように非難させるか、行方不明になった場合を		危機管理マニュアルにて個々に確認していく。利用者カード(写真付き)を作成している。様々な訓練を行い、職員の知識の向上を図り、事故防止に取り組んでいきたい。
72 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師の指導による応急手当、初期対応の仕方等もマニュアルを作成し行っている。AEDを設置しており、AEDの使用法や救急救命訓練を消防署の指導のもと毎年1回行っている。		研修等があった場合は参加する等、今後も訓練を行っていく。マニュアル作成し、個々に確認を行う、消防署より協力のもと救命訓練も行っている。
73 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自宅へ帰られた時の利用者の避難場所、協力者の確認を行っている。避難場所の確認(JA本所)見取り図、家族会等で災害時の協力を呼びかけている。又、地域の方々とも災害訓練を行うなど、日頃より協力が得られるような関係作りに努めている。		今後も災害避難訓練を行っていく。
74 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	定期的に訪問、状態の確認を行うことは勿論。介護計画書にて、家族に説明するが家族及び職員などの利用者対応についての理解を得る機会を持っている。		定期的に訪問及びひかり24に来所して頂き、今後も家族との連携を密に取っていきたい。活動の様子をみていただく。
78			
75 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃より、バイタル測定し日常の状態を把握している。申し送り書を活用し、情報を共有している。家族と連携を密にし、急変の場合病院へ連れて行く等対応している。		医師との連携に努める。引き続き、状態の把握に努め、対応していきたい。
76 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬明細を頂き、副作用、用法、用量を確認している。服薬に変更があった時ににも、申し送り書に記入し共有化を図っている。		家族や医師と連携を取りながら職員の知識を高め、把握に努めていきたい。
77 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を促したり、適度な運動を行い自然排便が出来るよう努めている。食事でも繊維の多い物の摂取を心掛けていく。又、研修等により職員の知識向上に努め、家族へも情報提供するなど連携を密にしている。必要に応じ、利用者の排便の有無を確認し、家族へも連絡を入れるなど対策に取り組んでいる。		職員の知識の向上に努め、便秘の予防と対応に努めていきたい。家族にも、家庭で出来る体操を指導し、可能な限り行っていたただけのようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの声掛けや必要時は歯磨きの一部介助を行い、清潔保持に努めている。口腔体操等を行い、提携医に相談、助言も頂いている。		職員が理解し、状態把握に努めていきたい。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や好き嫌い等の状態を把握し、食事の工夫等をして対応している。又、その日の食事の摂取量の記録や水分摂取の管理が必要な方についても記録し状態把握に努め支援している。		家での食事摂取量も確認しながら、口から食べ物を摂ることにより食べる楽しみをもち健康に過ごしていただけるよう支援していきたい。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の資料にて職員の意識向上に努めている。入浴や顔の表情、体調の変化に注意し深く観察し変化がある場合はマニュアルに添って対応している。来所時や外出から帰ってきた時は必ず手洗い、うがいを励行し、食事前には手指消毒を施行している。予防接種を促し感染予防に努めている。風呂場、トイレ等定期的な清掃、消毒を行っている。又、予		研修やマニュアルにより職員の知識向上に努めていきたい。流行時その都度説明し、記録し職員の共有化を図る。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機を使用(高温処理)調理前には手指消毒施行、半年に一度の検便検査を実施、新鮮な野菜の確保。定期的な清掃や消毒を行う。又、冷蔵庫の温度等定期チェックを行っている。		今後も引き続き食材や衛生管理を行っていく。
82 (1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には福祉施設であること、自由な出入りが可能なことなどを表示している。花壇や庭の手入れを行う等、明るい雰囲気作りにも努めている。		地域の人たちに協力して頂き、アドバイスを頂いたりして入りやすい雰囲気作りをしていきたい。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を利用した施設で、自宅を変えない空間作りに努めている。季節に合ったものを配置する、例えば夏には縁側に風鈴を置いたり、季節の花を飾ったりしている。レクリエーションで作成した、折り紙や貼り絵等で季節を工夫している。		常に清潔感を配慮して工夫を凝らしていきたい。今後も利用者の方に季節を感じてもらえるような飾りつけを行ってきたい。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	縁側やたたみの部屋、2階にいろんな種類の椅子やテーブルを設置し、その方の好みに合ったものでリラックスして過ごして頂けるようにしています。又、要望があれば心地よい音楽やビデオ鑑賞が出来るようにしています。マイクロ、マッサージ等も自由に使って頂くように配慮している。		人数が増えてきた時でも、利用者の方にゆっくりと過ごして頂けるような空間を作れるよう工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の思いがある品物などこの施設でも使用して頂いている。心地よく休めるよう自宅で使用されている枕を持参して頂いたりもしている。また、時計やカレンダーを見やすい位置に置き、日付がわかるようにしている。		今後も、この施設をもう一つの家(家族)と思って頂ける様品物等の工夫をしていきたい。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気を行ったり、空気洗浄機、加湿器を設置している。又、利用者の表情を見たり声掛けも行っている。温度計を設置して、温度、湿度の調整をしている。		換気時間の設定。 冷暖房機の温度調整。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーではなく、転倒には十分気を付けて自宅と同じように段差のある生活を行うことで、身体機能維持にもつなげている。段差の滑り止め、手すり、浴室の工夫、流し台等の使い勝手に工夫している。		安全に努め身体機能維持にも繋げていきたい。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱を防ぐ為に、一つずつ用事を頼んだり、タオルのたたみ等をお願いしている。キレイにたためなくてもして頂いた事に感謝している。用具や場所には大きな表示をし、目で確認できる工夫をしている。		今後は、自分から家庭でしていたことをやって頂けるように意欲を引き出す工夫をしていきたい。
89	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに花を植え楽しんで頂いている。庭には野菜と一緒に育てており手入れをして頂いている。気候のいい日は庭に縁台を設置しお茶のみをしたり、地域の方との交流の場としても活用できるようにしている。		今後も、野菜等を作り食材にしていきたい。沢山採れた時は、近所におすそ分けなど楽しみを持ってもらいたい。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者に寄り添う介護を心掛けています。常に声かけを行い安心して穏やかに過ごしていただけるよう職員一同取り組んでいます。JAの特性を生かし野菜の収穫に行かせていただいたり、ボランティアの協力を得ての外出や新鮮な野菜を使った料理の提供もしています。地域の方々に足を運んでいただけるよう施設での催しに声かけを行うなど開かれた施設を目指し、また自治会活動に参加したり、お祭りに出かけるなど地域の方々とのふれあいを大切にしています。自治会の方々も協力的で消火・避難訓練や救急救命訓練を自治会との合同訓練と位置づけて下さり沢山の方々に参加して下さいました。行方不明者の探索訓練も自治会の方々の協力を得て行っており、地元商店や自営業の方々にも協力を依頼し電話登録して頂きました。互いに連携を取り合いネットワーク作りをしていきたいと考えています。